

## 研 修 ( 研 究 ) 報 告 書

平成 3 1 年 3 月 3 1 日

玉名市議会

議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 近松惠美子



下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参 加 議 員	第 1 0 回日本自治創造学会研究大会		
日 時	平成 3 0 年 5 月 1 0 日 (木) ~ 平成 3 0 年 5 月 1 1 日 (金) 午後 1 時 0 0 分 ~ 午後 3 時 0 0 分		
場 所	明治大学アカデミーコモン棟 3 階アカ デミーホール	参加者数	700 人
研修(研究)事項	人生 100 年時代の地域デザイン ~人口減少社会に向き合う地域社会~		
概要及び所見	<p>■第 1 日目：5 月 1 0 日 (木)</p> <p>13:00~ 大会挨拶 穂坂 邦夫 ((財)日本自治創造学会理事長)</p> <p>13:10~ 講演「人生 1 0 0 年時代の人作り革命」 高橋 進 ((株)日本総合研究所理事長)</p> <p>14:00~ 質疑</p> <p>14:15~ 「パネルディスカッション」 「若者たちの挑戦ー人口減少社会の地域デザイン」 伊藤文弥、横山太郎、李炯植、井上貴至、山崎亮</p> <p>16:45~ 休憩</p> <p>17:00~ 講演「人生 100 年時代の政府の取組み」 菅義偉官房長官</p> <p>17:50~ 改革発表会兼交流会 (自由参加) ~改革大発信・ベスト 1 の選出・親睦・交流~</p> <p>■第 2 日目：5 月 1 1 日 (金)</p> <p>9:30~ 講演「これからの日本をどうする」 佐々木信夫 (中央大学名誉教授・(社)日本国づくり研究所理事長)</p> <p>10:20~ 講演「ごちゃまぜ共生社会で創る日本の未来」 雄谷 良成 (社会福祉法人佛子園理事長)</p>		

11:00～ 休憩

11:10～ 講演「空き家対策と活用策」

伊藤 明子（国土交通省住宅局長）

11:50～ 質疑

13:00～ 講演「人口減と対峙する地方議会」

北川 正恭（早稲田大学マニフェスト研究所顧問・元三重県知事）

13:50～ 質疑

14:00～ 講演「日本の目指す道」

新藤 義孝（元総務大臣・衆議院議員）

14:50～ 閉会挨拶

中邨 章（(財)日本自治創造学会会長・明治大学名誉教授）

■地方創生については「地方の元気なくして、国の元気なし」と言われるとおり、地方の取り組みを一層強化できるよう提言していかなければならない。


また、議会・行政の双方からの視点で、地方議員の私たちにとっては非常に重要な研究大会であった。

住民の思い・意見等を反映できるよう今後も取り組んでいきたい。

先進地（現地）調査報告書

平成31年4月1日

玉名市議会  
議長 様

氏名 近松 恵子 

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	近松 恵子 作序章男、西川 裕文、城戸 淳、古奥俊男、坂本 公司
日時	平成30年7月4日(水)～平成30年7月6日(金) 午前・午後 8時20分～午前・午後 9時16分
調査先	下関市役所、萩市役所、長門市役所
調査事項	①シビ工有効活用推進手帳 ②大河下り2世活用1世訪客③議会改革
調査先面会者	別紙のとおり
概要及び所見	別紙のとおり

日 時	平成30年7月4日（水）10:00～12:00
調 査 先	山口県下関市
調査先面会者	議会事務局 [redacted] 次長、 農林整備課有害鳥獣対策室 [redacted] 室長、 [redacted]
日 時	平成30年7月5日（木）9:30～11:30
調 査 先	山口県萩市
調査先面会者	議会事務局 [redacted] 事務局長、 [redacted] 次長 観光政策部観光課観光企画係 [redacted] 係長、 まちじゅう博物館推進部萩・明倫学舎推進課学舎管理係 [redacted] 係長
日 時	平成30年7月6日（金）9:30～11:30
調 査 先	山口県長門市
調査先面会者	議会事務局 [redacted] 主査、 [redacted] 主任、 [redacted]

7月4日 10時～12時 下関市役所ジビエ有効活用事業について

当市でも、年々イノシシ被害が増加していることから、捕獲数も増えている。そこで、ジビエ料理に使えるように、肉の解体、販売施設を作ったらどうか、という声がある。その先進地である、下関市役所を訪ねた。

たまたま肉屋を経営している人がその施設を管理しているため、解体技術や販売ルートを持っていることからどうやら運営できている、ということであった。ネックとなるのは、銃で仕留めた場合、玉が身体にあたったものは食べられないし、また仕留めたあと、1時間以内に解体しなければならないので、山から降ろす時間がかかると間に合わないことがあること。さらに解体処理できる人員が限られているので、一度に沢山のイノシシが持ち込まれると、断らなくてはならない場合もある、とのこと。

非常に多くの問題があるとお話くださった。販売価格も決して安くはないので、これらの諸問題を思うと解体販売施設を建設することには、慎重にならざるを得ない、と感じた。

7月5日 9時半から11時半 萩市役所 大河ドラマを活用した誘客施策について

萩は明治維新の立役者の揃っているところでもあり、「NHK,大河ドラマ花燃ゆ」が放映される以前より、これらを取り上げた観光地が整備されていたことを目の当たりにして、玉名とはとても比較にならないと感じた。

玉名は、豊かな土地があるが、萩には、明治の歴史がそのまま残っている。玉名もこれから、金栗先生の足あとをどのように残して発展させていくか、今からが始まりだと感じた。

7月6日 9時半から11時半 長門市役所 議会改革について


ペーパーレスを目指して、タブレットを導入している長門市議会を訪れた。平成25年から協議を開始しておられた。議員の平均年齢が若いこと、すでにタブレットを使用している議員もいたことから導入に向けて協議をすすめ、平成26年12月議会では16人中13人がタブレットを持ち込んでおられた。同時に複数の資料を見比べることができない、という欠点もあるが、タブレットを使うことで、スケジュールを共有できたりと、便利なことも多いとのことであった。時代の流れとして、また無駄な紙を節約するためにも、玉名でも協議していかねばならないと感じた。

## 先進地（現地）調査報告書

平成31年4月1日

玉名市議会

議長 中尾 嘉男 様

氏名 近松 忠夫 

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	作舟亨男、西川裕文、石奥俊男、坂本公司、近松忠夫
日時	平成30年10月16日(火)～平成30年10月18日(木) 午前・午後8時20分～午前・午後7時15分
調査先	高知市役所、まると廃校水族館、高松市役所
調査事項	①防災対策 ②廃校の活用 ③政策コンテスト
調査先面会者	別紙のとおり
概要及び所見	別紙のとおり

日 時	平成30年10月16日(火) 14:00~16:00
調 査 先	高知県高知市
調査先面会者	議会議務局議事調査課 [redacted] 管理主幹 防災対策部地域防災推進課 [redacted] 課長、 [redacted] 課係長 防災政策課 [redacted] 係長、 [redacted]
日 時	平成30年10月17日(水) 10:00~12:00
調 査 先	高知県室戸市 むろと廃校水族館
調査先面会者	むろと廃校水族館 [redacted]
日 時	平成30年10月18日(木) 10:00~12:00
調 査 先	高知県高松市
調査先面会者	健康福祉局こども未来部 福祉事務所子育て支援課 [redacted] 課長補佐、 子育て企画 [redacted] 係長

## 行政視察研修報告（平成30年10月16日～18日）

10月16日

### 高知市の防災対策について

南海トラフ地震に備えて、木造住宅耐震改修に関して上限を92・5千円全額補助するなど被害を最小限に食い止めるための施策に取り組んでいた。市内では避難のための塔が建設されており状況を見ることができた。また、ハード面だけでなく、地区防災組織の育成や備蓄品の準備などきめ細かな対策も34名の職員でされていた。

これらの事業は、全て国と県の補助であり16年間で600億円を予定しているとのことであった。また、議会としても情報を一元化し、迅速に対応できる仕組みづくりがされていた。玉名でも防災については力を入れているが、こちらは600億という予算がどんとついていることには驚いた。また、ハード面の整備の目途が付いたからということで、防災や避難所対策などは女性の視点が必要ということで担当課長のお二人が女性であったことに感心した。女性が強いと言われる高知ならではのことで、玉名でも女性の登用については、もっと進めてもらいたいものだと思った。

10月17日

### 室戸市の廃校水族館見学

土地が借り物である小学校が廃校になったが、建物がそれほど古くもなかったこともあり、取り壊しよりは活用を、という国の意思があった。そこで、民間に管理委託し、活用していただくことを考えたが、申し込みがあったのは、一カ所のみということで、水族館に決まったのだ、というご説明を受けて、館内を見学した。絶対赤字経営になる、と思われていたのに反して来場者が多い秘訣が館内に数々あった。指定管理をこのような熱意ある団体が受けたことが一番の成功の鍵であったと感じた。つまり業者は市内外と問わず幅広く募集し、熱意ある団体に委託することが求められる。

10月18日

高松市役所では、子育て支援施策や政策コンテストについて研修を受けた。子育て支援策の一つである、子ども食堂について、運営費補助することになったのだが、その条件である月2回開催、ができない団体が多く実際補助を受ける団体が15団体のうち1団体でしかなかったということであった。

現代の貧困は、経済的貧困というより文化的貧困（世話が十分でないなど）が多く、その対象者を絞ることの難しさ、そしてプライバシーを守る必要性などを考えていくと、必要な子どもに必要な支援をすることの難しさを学んだ。